

「市長、出勤！まちトーク in 松梅」議事録

令和7年2月26日（水）

松梅公民館

※意見交換の内容は要約しています。
(太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。)

【意見項目】

- 1 学校給食について
- 2 農地転用、公営住宅等の誘致について
- 3 農業用水路の補修について
- 4 農業に関する補助金について
- 5 防犯灯の電気代補助について
- 6 地区内の橋補修について
- 7 松梅保育所について
- 8 過疎対策について
- 9 公共交通（松梅デマンドタクシー）について
- 10 松梅校区における子供の教育について
- 11 名尾公民館、名尾広場について

【意見交換内容】

1 学校給食について

新聞に「給食のカロリーが国の基準よりも下回っている」ということが載っていました。家庭で補える部分もありますが、給食のカロリーが基準を満たしていないということは非常に問題があるのではないかと個人的に思います。

物価高騰により、栄養士の方が計算された数値を満たす食材を揃えられていないのではないかと思います。

これは、市が財源を充てていないからではないでしょうか。育ち盛りの子どもがカロリー不足にならないようにしてもらいたいです。

市の予算を削減できる部分は削減してもらって、将来のある子どもたちのために使うように振り分けていただきたいです。

(市長)

物価が高騰している中、給食のことについても議論を続けています。市議会の中でも審議いただき、物価高騰対策として給食の食材値上がり分の助成について、ぜひ形にしたいと考えています。お話いただいたような、子どもたちがすくすくと育つことができる環境につなげていきたいとします。

2 農地転用、公営住宅等の誘致について

市内の農業振興地域は、佐賀市が定める農業振興地域整備計画に基づいて設置されると伺いました。その振興地域内の農地（青地）については、農地法で転用が原則禁止になっています。

しかし、農地の中にも、水の入りが悪いとか機械が入りにくいなど、立地条件に問題がある農地があります。また、農業の担い手の確保もこれから難しくなっていくので、立地条件に問題がある農地が将来的に耕作放棄地になることを懸念しています。そういう農地が本当に農業振興地域の農地としてふさわしいのかということについて、整備計画を見直していただけないでしょうか。

そして、松梅地区に公営住宅や福祉施設などを誘致していただき、農地の耕作放棄地が懸念されるような農地を、建設用地として有効活用するなど、地域の活性化に資するような政策をぜひお願いしたいです。

（市長）

優良農地いわゆる「青地」の農地は、農地法に基づく転用許可が必要になります。

農地を守ることが法律上必要とされている一方で、耕作放棄地の問題もあります。

具体的な計画があって、除外要件や関係法令の許可の見込みがあるといった要件を満たす場合、対象農地やその周囲の状況によっては、青地から白地になる可能性もありますので、ご相談いただきたいと思います。

また、公営住宅のお話もありましたが、一方で、空き地や空き家も課題となっています。そういう空き地や空き家をうまく活用することが、ますます重要になってきますので、力を入れていきたいと思っています。

3 農業用水路の補修について

嘉瀬川水系に、コンクリート水路と取水ゲートを設置して、農業用水や生活用水、防火用水などに利用しています。

これらを設置してから、相当の年数が経ち、かなりの補修や手入れが必要になっていて、いつ壊れてもおかしくない状況ですが、地区では、これらの改修費用に対応できません。

また、設備保全も農業者に委ねられていますが、高齢化が進む中、非常に危険を伴う作業であるため、将来的に設備保全もできなくなると考えています。

現状の設備調査と保全対策をぜひお願いします。

（市長）

高齢化が進み、農業用水路の改修・保全をしていくことの負担が大きいということですので、水路の利用状況や目的など、詳しい状況を確認しながら、地元にやっていただくのか、市が対応できるのかということを確認していきたいと思っています。ぜひ北部建設事務所に相談を寄せていただきたいと思います。

4 農業に関する補助金について

ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置などについて補助金がありますが、1つの補助金を受けていると他の補助金がもらえません。二重補助ができないと言われました。農業が成り立っていないので、複数の補助金が受けられるように、規制を緩和してほしいです。

(市長)

高齢化していく中、農業をつなげていきたいという思いがあってのご意見だと思います。農業を守るために何ができるかということについて、知恵を絞っていきたいと思います。

5 防犯灯の電気代補助について

山間部では、市が設置している自歩道照明だけでは不足するので、自治会で防犯灯を追加で設置し、電気代を地区の住民の方から集めるお金で賄っています。

高齢化しており、10年後、15年後には、人口が減少して戸数がかかなり減ります。

自助、共助、公助ということで、できるだけ自分たちのところだけでおさめたいとは思いますが、今後、数世帯で自治会活動ができるのか、防犯灯の維持管理ができるのかという問題があります。

防犯灯の維持管理費について、市として何か支援いただけないでしょうか。

(市長)

今後の人口推移については、我々も、人口減少をできるだけ緩和するような施策を考えているところです。

一方で、高齢化していることも事実として受け止めて、今後のことを考えていかなければいけないと改めて感じました。

今年度、防犯灯に関して、新規の設置や補修については助成上限額を2倍にするなどの見直しをしましたが、世帯数自体が減っているという切実な事情のお話ですので、今後どういうことができるか考えてまいります。

6 地区内の橋補修について

私の地区では、ごみの回収場所を公民館に設置しています。

公民館の手前に自治会が設置した橋がありますが、かなり老朽化していて、ゴミ収集車が来るたびに、壊れるのではないかと心配しています。橋の補修をお願いします。

(市長)

公民館の敷地内に、ごみ収集場所があって、その手前にある自治会の橋が老朽化しているということですね。

まずは、現場を確認させていただきたいと思います。

7 松梅保育所について

保育所の出入口のサッシドアに、子どもが手を挟むのではないかと心配しています。今後取り替えていただきたいと思います。

また、大雨になると保育所からの避難が必要になり、子どもを預けた後に避難指示が出たり、預ける前に休園になったりしますので、校区外からも多くの子どもさんに来ていただいています。大雨の時は、保護者の方が保育所に子どもを預けられず困っておられます。

校区外から松梅に来ていただくこともありがたいことですが、子育て世代の人たちが松梅に住んでいただくということが1番だと私は思っています。

松梅をはじめとする「人口問題を抱えた地域」に、子育て世代が移住するような佐賀市ならではの手立てや制度を考えていただきたいです。

(市長)

松梅保育所は、今年度、内部の改修をしました。お話されたように、さらなる安全対策が大事だと、改めて思ったところです。今後も皆さんのお話を聞きながら、対応していきたいと思えます。

また、保護者の方には、災害時に松梅公民館で保育を行うなど、ご迷惑をお掛けしていることは承知しています。

保育中に松梅公民館へ移動する際は、子どもたちを安全に移動させるため、大型タクシーの利用ができるようにするなど、できる限り改善に向けて取り組んでいますが、それで終わりということではなく、今後もしっかり対応していきたいと思えます。

それから、小中学校の生徒は、校区外から結構来られているとのことで、それ自体は非常に喜ばしいことだと思います。それだけ、「松梅で学ぶということに魅力を感じる」方がいるということの表れだと思います。

今後の人口推移を考えていく中で小中学校の施設をうまく活用していくことは、今後の松梅保育所の在り方について、大事な視点になると思えます。

昨年度、山間部の中学校の再編も含めて、アンケートを行いました。学校や保護者、地域住民の方と議論を重ねているテーマでもありますので、我々も、丁寧に話し合いをしていきたいと思えます。

8 過疎対策について

耕作放棄地が増えて、田んぼではない状態の場所もあります。治山治水には、田んぼを耕作していることが有効です。耕作放棄地になってしまう原因は、若い世代の人口が減り、子どもや子育て世帯が少なくなっていることです。このようなことについて、過疎対策を

していただきたい。

松梅は富士町や三瀬と変わらない位置にありながら、過疎の指定地域ではないため、過疎債を使えるいろんな事業が実施されません。過疎債が使える地域と同じようにしてほしいわけではありませんが、補助政策などについて考えていただけないでしょうか。

「学校を無くしたくない」、「保育所を無くしたくない」という気持ちがあつての意見です。

(市長)

過疎対策については、「空き家バンク制度」、「集落支援」、「定住支援」などの取組を、うまく使いながら、空き地についても「空き地バンク」を新たに取組んでいきたいと思えます。

それから、過疎債が使えないということにつきましては、これ自体は、過疎対策特別措置法の関係もあり、非常にお悩みの部分だと思います。

今年度から、こちらでは「中山間地農業ルネサンス推進事業」の交付金を活用して、農業の収益力向上に取り組まれているとお聞きしています。いろんな交付金の活用や交通関係、空き家の活用による定住施策などを組合せて、地域が持続的に住みよいまちになっていけるように取り組んでまいります。

9 公共交通（松梅デマンドタクシー）について

松梅ではデマンドタクシーというシステムを作っていただいています。ありがとうございます。

ただ、現在、松梅校区から佐賀医大方面へ向かう公共交通機関はほとんどありません。デマンドタクシーで尼寺まで行き、市営バスのバスセンター行きに乗り換え、バスセンターで市営バスの医大行きに乗り継ぐ必要があるため、1時間から2時間かかります。高齢化率の高い松梅地区は車の免許証返納も増えていて、一般のタクシーで直接行こうとすると、往復で1万円以上かかります。

このため、デマンドタクシーを佐賀医大病院まで延伸するとか、市営バスを、尼寺～医大前、医大前～バスセンターといった循環バスとすることなどを考えていただけないでしょうか。

(市長)

デマンドタクシーの「べんりカー松梅号」の累計利用者数が12万人を突破し、多くの皆さんに使っていただいていることを、大変ありがたく思います。

こちらは、市が赤字部分の補助をしながら、タクシー会社に運行していただいています。

他の地域では、タクシー事業者が無くなってしまいうということも起きています中、事業者にご協力いただきながら地域の足を確保している取組です。

この取組は、国の認可を受けて行っています。そのときに運行区域なども定めていることもあり、路線バスやタクシー事業者との調整などが必要になるテーマです。

これは市内全域の話ですが、来年度、バスやタクシーなどの移動に関するデータを集めて分

析していきたいと考えています。

新しい運転手をなかなか確保できないことが課題になっている中、松梅地区のような「デマンドタクシー」や「地域の支え合い交通」、「既存のバス、タクシーの事業者」をうまく組合せて、持続可能な交通ネットワークの構築を考えたいと思います。

また、最近では二種免許を持っていない方でも運送できるライドシェアという仕組みもあり、どのような形が持続可能かをしっかり分析してネットワークを構築していきたいと思います。

10 松梅校区における子供の教育について

中山間地に子どもを育てる世代が来るためには、ニーズのマッチングが必要だと思います。小規模校ならではの教育を望まれるご家庭は、佐賀市内にもたくさんいらっしゃると思います。子どもの数を増やしたい過疎地区へ子育て世代に来ていただくためには、大規模校になじめないお子さんなど、多様な子どもたちが安心して過ごせる学校が必要だと思います。

「校内フリースクール」の設置や「学びの多様化校」の設置などを検討いただいて、小規模校で子どもに教育を受けさせたいご家庭が、子どもの数が少ない地域に来ることができるように、ニーズの調整をしていただきたいと思います。

(市長)

松梅小、松梅中、松梅保育所に、校区外から来られているということは、それだけニーズがあるということだと思います。

大規模校で1人の先生ではなかなか目が行き届かないとか、多様性ということで特別支援が必要なお子さんが増えている中で、先生方が子ども1人2人にかかりきりになり、多くの子どもたちへの対応が難しい状況が生まれています。

お話にもありましたが、松梅のように風光明媚で、自然豊か、そして先生たちの目も行き届くというところに魅力を感じる方やニーズがあると思うので、そのマッチングを意識したいと思います。

これからの教育の在り方は、今までの「知識を効率よく教える」ということだけではなく、子どもたちが「自ら何かを学んでいく」、「主体的に学ぶことを応援する」ということが理想だと思います。

そのようなチャレンジをぜひ応援していきたいと思っていますので、そういう意味でも、学びの多様化も意識しながら、ここで学びたいという子どもが増えていけば良いなと思ったところで

11 名尾公民館、名尾広場について

松梅の名尾地区では、災害時に県道209号を主に使用しますが、山が迫っているため、線状降水帯などで山にたくさんの雨が降って、崖が崩れたりすると、この道路が塞がれてしまい、松梅公民館まで避難することが難しくなります。

名尾地区では、毎年、一斉に合同で避難訓練をしていて、名尾広場に集まり、名尾公民館

で炊き出し訓練などを行っています。

しかし、名尾公民館から名尾広場に行くまでの道が急であり、救急車や消防車は上がりません。もし災害があったときにドクターヘリを下ろす場所也没有ありません。

これらのことから、名尾広場の土地を下げていただくなど、使いやすくなるように整備していただけないでしょうか。名尾広場は、地域の憩いの場であり、避難場所であり、祭りなどの地域行事の会場でもあり、今後ずっと活用していきたいと考えています。

(市長)

名尾公民館は、名尾分校の跡地であるということで、皆さんの思いが強い場所だと思います。現地を見ましたが、公民館と広場を繋ぐ斜面の階段は急で、災害時を考えたとき、いろいろと難しい部分があると感じました。

名尾地区の皆さんにとって、名尾広場を災害時の一時的な避難場所として活用したいと強い関心を寄せられているとお話をお聞きしました。

いろんな制約条件もあると思いますので、現場を改めて確認させていただきながら、どのようなことができるのか、検討したいと思います。